

RS ウイルス感染症 (Respiratory syncytial virus infection) は、RS ウイルスの感染による呼吸器の感染症です。生後 1 歳までに半数以上が、2 歳までにほぼ 100% の児が RS ウイルスに少なくとも 1 度は感染するとされています。

症状としては、発熱、鼻汁などの軽い風邪のような症状から重い肺炎までさまざまです。RS ウイルスの初回感染時には、より重症化しやすいと言われています。

初感染乳幼児の約 70% は、鼻汁などの上気道炎症状のみで数日のうちに軽快しますが、約 30%、とくに生後 6 ヶ月以内に RS ウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎、喘鳴、呼吸困難など重症化する場合があります。また、重篤な合併症として、無呼吸発作、急性脳症等があります。生後 1 ヶ月未満の児が RS ウイルスに感染した場合は、非定型的な症状を呈するため診断が困難な場合があり、また突然死につながる無呼吸発作を起こすことがあります。

当クリニックでは、RS ウイルスワクチンの接種を受け付けています。

(RS ウイルスワクチン：商品名：アブリスボ)

妊婦さんに投与することで、母体の RS ウイルス抗体が産生され、その抗体が胎盤を通して胎児に移行することで、出生時から乳児の RS ウイルス感染症を予防します。妊娠 28 週から 36 週での接種で有効性が高くなり、効果は出生後 6 ヶ月、発症予防効果は 50%、重症予防効果は 80% です。

より詳しく

RS ウイルスとは？
(ファイザー株式会社)



RS ウイルス感染症 Q & A
(厚生労働省)

